

モデルコース④

秩父裏街道と夢窓疎石の足跡を辿る道

「石立僧」^{むそうそせき}夢窓疎石の原点 ^{えんか}煙霞の街道奥深くへと分け入る

室町時代、足利将軍家からの崇敬を受けた臨済宗の禅僧、夢窓疎石は、この地域で幼少期を過ごし、長じて後には山中で行を修めたと伝えられています。恵林寺の山号にもなっている乾徳山(山梨市)は夢窓疎石の修行場であったとされ、喉を潤した水場と言われる銀晶水、錦晶水や、座禅石が残っています。また、かつて山梨市牧丘町にあった浄居寺は、夢窓疎石が初めて開いた寺と伝えられています。

この他にも、秩父往還沿線とその周辺には、夢窓疎石の足跡を幾つも認めることができます。夢窓派僧たちの祖として弟子に連なる者一万人と言われ、七人の天皇・上皇から国師号を贈られるなど、中世日本史の展開に深く関わった夢窓疎石は、自らを「煙霞之癖(雲や霞、山水の景色に執着し、深く自然を愛する心)」と評する「石立僧」でもありました。その原点は、夢窓疎石が山野に遊び、行を修めた甲斐の地にあったのかもしれませんが。

このコースでは夢窓疎石の事跡が残る寺院のほか、この地域を拠点とした甲斐源氏、安田義定にゆかりのスポットを巡りつつ、秩父裏街道の懐深くまで脚を伸ばします。

コース概要 **S** **G** 街の駅やまなし
距離：約40km/所要時間：約6時間(マイカーまたはレンタカー利用)

その他 関連情報 山梨市駅周辺を散策したい→山梨市駅周辺ルート(峡東ワインリゾートマップ)
てくてくお散歩MAP(山梨市 桃の花散策MAP)



清白寺

1333(正慶2)年に夢窓疎石を開山とし、足利尊氏が開基した臨済宗の寺院です。仏殿は1415(応永22)年の建立で、寺院火災や戦火に見舞われることなく室町時代中期から現存する貴重な禅宗仏殿として、国宝に指定されています。古来より「梅の清白寺」として知られ、参道の両側には紅白の梅が見事な花を咲かせます。境内には夢窓疎石が自ら植えたとの伝説が残る梅「西湖梅」や、緑色の花を咲かせる桜の御衣黄、淡黄色の花を咲かせる桜の鬱金桜など、四季折々の花が整えられています。



雲光寺

境内入口の東側には石塔「安田氏五輪塔」があり、中央に立つ3基の五輪塔のうち、向かって左が義定の息子の義資、右が義季のものとして伝えられています。中央の五輪塔は鎌倉時代後期の建立、両脇の2基は南北朝時代ごろの建立とみられています。安田義定は現在の山梨市、八幡荘内の安田郷を本貫(氏族発祥の地)とした甲斐源氏で、源平合戦では源義経と共に平氏の追討に参加し功を立てました。



恵林寺

1330(元徳2)年、牧ノ庄の領主であった二階堂貞藤が屋敷の一角を寄進し、開山に夢窓疎石を迎えて創建しました。恵林寺は甲斐国の臨済禅林文化の一大拠点となり、武田信玄はこれを自身の菩提寺に決めました。国指定名勝である恵林寺庭園は、後に京都の龍安寺庭園、西芳寺(苔寺)庭園を作庭する禅僧夢窓疎石56歳当時の作とされ、甲斐国内で造営された寺院庭園に大きな影響を与えました。



浄居寺城(中牧城)跡

1589(天正17)年に徳川家康が改修・整備した城跡で、東西327m、南北436mに渡る敷地内には、土塁や櫓の痕跡を見ることができます。甲府盆地に向かってなだらかに下る扇状地の途中に位置しており、ぶどう畑が一面に広がる眺望を楽しむことができます。



洞雲寺

1590(天正18)年に、豊田秀吉の部下であった加藤光泰が安養寺を現在の場所に移し、洞雲寺と改称しました。境内には光泰の五輪塔があるほか、県指定天然記念物の八房の梅、樹齢150年を超えるしだれ桜もあります。また敷地内には大きな涅槃像や観音像、三蔵法師像、200体以上の水子地藏など、様々な石仏が置かれています。



赤芝集落

近世の茅葺民家から近代の瓦葺民家まで、複数の伝統的建築が現存する集落です。中でも明治時代以降に成立した、越屋根(屋根の一部を上持ち上げ、小さな屋根を付けた形式)を持つ三階建の瓦葺民家が集中して残り、特徴的な景観を作り出しています。



鍵懸関跡

赤芝集落にあった関所の門を復元した施設で、山梨市の指定史跡です。武田信虎が川田館から居館を移して以降、古府中郷跡が崎館から太良峠、古峠を越えて秩父往還に至る秩父裏街道(西保海道)は軍事上の秘密道路とされ、切差集落や赤芝集落などの要所には関所が設けられていました。

